

まずは皆さんが、ひたむきにピアノに向かっていることが伝わってきて、とても嬉しく思いました。ピアノは急に弾けるものではないので、毎日の習慣として続けていかなくてはなりません。皆さんはそれができているからこそ、コンクールに出場できたのですから、素晴らしいことだと思います。特に最近はコロナ過で演奏する機会やたくさんの人に聞いてもらう機会が少なくなっていると思います。上達する近道は、人前で演奏することが一番だと思います。ぜひこれからも演奏する機会を積極的に見つけて下さいね。

みなさんとてもよく弾いていたので、今後さらに上手になるにはどのようなことを勉強していけばよいか、ということを考えました。まずは自分の弾いている曲がどんな曲なのかを理解することが大切だと思います。踊りの曲だとしたら、どんな踊りなのか、タイトルが付いている曲なら、どんな情景なのか、など考えてみてください。良く分からなければ、まずは明るいか暗いか、だけでも良いと思います。曲には一つ一つキャラクターがあるので、その曲のキャラクターを読み取り、表現して下さい。

技術的な面で言うと、例えば軽やかな曲の時に指を鍵盤に押し付けて重たく弾いてしまうと、軽やかな印象ではなく、ドタバタした感じになってしまいます。手首の位置や腕の動かし方なども意識をして、指が軽やかに動くように使ってみて下さい。歌う曲はレガートが大切なので、音が一つ一つ聞こえるのではなく、次の音へ重さを移動させていくように打鍵してみてください。

そして今はコロナ禍で歌う機会が少ないかと思いますが、歌うことはピアノを弾く上でとても重要なことなので、メロディーを声に出して歌うことも大切にしてください。

ピアノで色々な音色が出せるようになると、音楽がさらに生き生きとして楽しくなると思います。そのためにはライブでのピアノの生の演奏や、オーケストラの楽器の音もたくさん聞いてください。この部分はこの楽器の音のイメージだな、と考えて弾くと、とても楽しいと思います。

ピアノで自分の気持ちを表現できるようになったら、ピアノが一生のお友達になれると思います。ぜひこれからも楽しくピアノを弾いてくれたら嬉しいです。

また皆さんの成長した演奏を楽しみにしています。ありがとうございました。

高橋知子